

大学院経済学研究科博士後期課程増設 記念号の発刊によせて

大学院経済学研究科修士課程が設置されたのは昭和50（1975）年でしたが、この時、経済学部はまだ設立されておらず、商学部のなかに経済学科として包摂されていました。経済学部が設立されたのは平成5（1993）年のことでした。学部独立とともに、博士後期課程の増設についての検討が開始されましたが、具体化されたのは先代の有木研究科長の時期であり、一昨年、漸く増設の認可を見、昨年4月から発足することになりました。

21世紀に向け、社会経済面での国際化、情報化は進展の度を強めています。だが、それとともに社会経済の展開は、不確実性、不透明性を強めつつあります。こうした社会経済的状况に対応するには、修士課程だけの修学では不十分となりつつあります。博士後期課程が増設された目的は、修士課程での修学を基礎に、さらなる研鑽を重ね、不確実、不透明な社会経済的諸事象を分析的に検討し、将来の方途を切り開いていく能力を備えた人材を養成するためであります。

こうした人材は研究者として必要なだけでなく、今後、実社会でも必要となります。後者については、社会人のリカレント、リフレッシュ教育が、どこの研究科でも重視されています。以上は他の博士後期課程とも共通する特徴です。本博士後期課程の特徴は、九州経済ならびにアジア経済の研究に力点を置いている点です。アジア経済については「アジア諸国との共生を的確に組織できる高度の能力を持つ人材」の養成を課題としています。

現段階は、いわば博士後期課程の形が設けられただけで、これからは内容を充実させることが課題です。その課題に応えるには、われわれ教員の絶えざる研鑽が重要です。この度、九州産業大学経済学会は、学会誌エコノミクスの3・4巻を博士後期課程増設記念号として編集することにされた。経済学会のこの協力に感謝して、挨拶の結びと致します。

2000年1月7日

大学院経済学研究科長
上野重義